ずいそう

交換留学生からの宝物

岩　﨑　茂　雄

建設機械施工の「ずいそう」執筆依頼が来て，なにぶん文才がないため，なぜ私にきたのか大変驚いております。しかし，お断りもできないため経験談を紹介させていただきます。

平成12年，オランダの交換留学生をお預かりすることになり，家中だれも英語が話せないのに大丈夫かと心配しましたが，我が家が望ましいと勧められ，悪戦苦闘の4か月を迎えることになりました。

電子辞書を片手に身振り手振りで意思の疎通をはかり，日常生活は支障なく過ごせましたが，少しでも日本の文化を知ってもらいたいと，こたつに入って日本の生活を日本語で必死に説明したことを覚えています。交換留学生は，大変まじめで積極的であり「学校での生活」，「書道教室」，「太鼓教室」など日本人とのコミュニケーションが人一倍多かったせいか，もともと才女であったことも功を奏し，4か月の間に日本語で日常会話ができるようになりました。

日本語は世界で一番難しい言語と思い込んでいましたが，短期間での上達ぶりに驚き，毎日少しずつの会話の繰り返しが上達の要因と自分なりに分析してみました。

我が社は除雪装置の製造を行っている企業となりますが，当時は除雪トラック業界もグローバル化が進み，海外の情報収集が盛んに行われる年代でありました。一方，語学ができないと海外に行くのはツアーに限られ，好きな所へ行くなど考えてもみませんでした。

写真―1　国際冬期道路会議屋外展示場

しかしながら，交換留学生の語学上達を目の当たりにして，もしかして自分も英会話スクールへ行けば何とかなるのではないかと思うようになり，石の上にも3年，50歳までなら上達も可能かもと47歳の時，趣味の英会話を始めました。

英会話スクールの触れ込みを信じ，「あるレベルまで上達したら一人で海外旅行ができる」との思いから，平成18年にイタリアのトリノで開催された国際冬期道路会議の視察を強行しました。

初めての海外一人旅，英会話スクールで学んだフレーズが緊張のあまりスムーズに出てきません。しかしながら，展示会で日本とはあまりにも異なる除雪機械を見て興味を抱き，拙い片言の英語で話しかけると，その企業の担当者が社長を連れてきて，構造説明や装置目的等を聞くことができました。語学力が伴わなかったためすべてを理解できなかったものの，良い思い出になりました。

除雪機械の海外視察でせっかくヨーロッパへ行ったのですから，後にかの交換留学生が住むオランダのデルフトの街を訪ねたのは言うまでもありません。

平成26年に60歳になった記念に夫婦でオランダへ旅行しました。私は「花に囲まれた落ち着いた色調の街並み」，「縦横無尽に走る運河」，「日本人好みのこじんまりとした家々」が好きなことから，交換留学生に世界遺産のキンデルダイクの風車を案内してほしいとあらかじめ頼んで出発しました。

オランダのスキポール空港で待ち合わせをしてデルフトへ移動しましたが，会ってすぐに彼女のおばさまがお亡くなりになり，葬儀に参列するためキンデルダイクへは同行できないと告げられました。しかし，「詳しい道のりメモがあれば自分で行けるよ」との事でした。

その夜は，彼女の家で旦那様と子供と一緒に夕食をごちそうになり，ホテルへ戻りました。

翌朝，ホテルからタクシーでデルフト駅へ行き，言われた電車に乗りました。

電車が間違っていないか不安があるため，向かいに座っていた初老のご婦人に目的の駅に止まるかどうか聞いたところ，「この電車は急行でその駅には止まり

ません。次の普通列車に乗り換えなさい。」と教えてもらいました。

何とか目的の駅に着きましたがバスの乗り換えが必要となります。1時間程のバスの旅，あらかじめ運転手に降りるバス停を告げて難なく目的地に到着することができました。

キンデルダイクの風車は，現在も多くが稼働しており，風車の中は博物館になっています。施設は構造や昔の生活をうかがうことができ，運河を行く遊覧船からの景色は絶妙でまさにオランダでした。

ところが，帰りのバスでまたまたハプニング勃発です。よく似た景色に惑わされ間違って途中で下車してしまいました。バス停で待っていた初老のご婦人に事情を説明したところ，私が行こうとしている駅だから，バスが来たら一緒に乗ればよいと教えていただき，駅まで何とかたどりつくことができました。驚いたことに，バスの運転手に事情を話したところ，それなら運賃はいらないと寛大な対応をしていただきました。交換留学生の思わぬ葬儀参列で，想定外の貴重な体験をすることができました。

デルフトからの帰りはホテルから駅まで電車に乗りましたが，車掌さんの計らいで一駅だから運賃はいらないとサービスしてくれました。オランダは大変おおらかな国だなと，几帳面な日本の生活との違いを改めて感じました。短期間で多くの観光地を訪れるパッケージツアーも楽しいですが，ハプニングの連続の個人旅行も結構楽しい思い出ができます。

写真―2　キンデルダイクの風車網

元をたどれば，交換留学生の日本語上達への驚き，今となっては宝物です。

――いわさき　しげお　岩崎工業㈱　代表取締役――